

農業農村整備事業の紹介

畑地かんがい施設を活用して収益アップ！ 二戸市・一戸町の事例

■岩手県農林水産部農村計画課・農村建設課

岩手県では、夏季冷涼な気候や起伏のある地形など、本県特有の条件のもと、地域の特色を活かした農業を展開するために「畑地かんがい施設」の整備を推進しています。

本稿では、事業で整備した畑地かんがい施設の活用により、農業生産性が向上するとともに、品質向上によりブランド化を図り、また、現在も畑地かんがい施設の整備を進めている二戸市および一戸町の事例を紹介します。

事業導入のきっかけ

二戸市および一戸町は岩手県の最北部に位置し、耕地の約7割を畑地が占める園芸を中心とした地域です。特に二戸市のりんごの栽培は明治初期から行われて、約140年の歴史を有しています。

しかし、当地域は、農業用水の供給源が乏しく、降雨とわずかな井戸水に頼った営農を強いられており、主要作物であるりんごやレタス等の収量や品質の向上が課題となっていました。

事業の効果

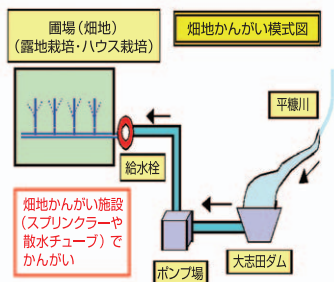
こうした課題を解決するため、菜魚湖（ななこ）の愛称で親しまれている大志田ダム（一戸町）を水源とした畑地かんがい施設を整備する事業を導入することとなりました。

事業では、用水管路やスプリンクラー等の畑地かんがい施設整備と、効率的かつ安全な農業のための農道整備を一体的に行います。

整備した畑地かんがい施設によって、夏場の少雨や高温等の異常気象の際でも「必要な量」に、「必要な量」だけ水を安定的に供給することができ、収量および品質の向上が図られています。



大志田ダム全景



りんごの防霜かんがい状況（二戸市）



スプリンクラーでかん水（一戸町）

○防霜かんがい
0℃を下回った時に散水することにより、枝の表面は氷結しているものの、内部が0℃以下にならないように保ち、凍霜害を防ぐ。(散水氷結法)



H13ジョナゴールドの霜被害果

(左：正常果、右：被害果)

また、りんご等の果樹において、4月に「最低気温が氷点下となった際に霜害が発生すること」があります。この対策として、静岡県茶栽培等に使用されている散水氷結法による防霜かんがいが可能となり、品質の安定化が図られています。

県内の取組状況

一戸町奥中山のレタスでは、

栽培農家が10年前に比べ半減したものの、規模拡大やかん水労力の大幅な軽減など作業の効率化により、平成27年度の販売額は11年ぶりに10億円を突破しました。

また、二戸市のりんごでは、かん水等により蜜入りが良くなり、岩手県で開発されたりんごの品種「はるか」のうち、糖度16度以上、蜜入り指数3.0以上のものを「いわて純情プレミアム冬恋（ふゆこい）」と銘打ってブランド化を図り、高値で取引される等、農業経営の安定化が図られています。



いわて純情プレミアム冬恋

農業経営の安定化で地域活性化

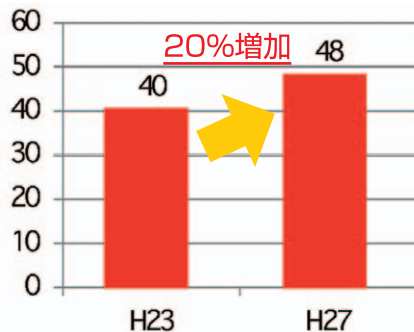
事業を導入した一戸町中山の摺糠（すりぬか）集落では、農業経営の安定化や3世代同居世帯が多いことなど、安心して子育てができる環境が整っていることから、U・Iターン者が増加し、子供（12歳以下）の数が平成23年から20%増加（きょうだいの数は平均2・73人）しました。

また、多面的機能支払制度を活用して地域資源の保全・向上活動に積極的に取り組むとともに、冬季に町をあげて開催するクロスカントリースキ大会運営に全面的に協力するなど、地域活動が活発に行われています。

県では引き続き、事業導入を契機にした地域活性化の取組を支援していきます。



摺糠集落の圃場



摺糠集落の12歳以下の人口 (人)

●このページに関するお問い合わせ

岩手県農林水産部農村計画課・農村建設課 Tel1019-629-5366 Fax 019-629-5679 E-mail: AF0006@pref.iwate.jp